

第3回 葛飾区基本構想・基本計画策定委員会（第2分科会）会議録

- 場 所：葛飾区男女平等推進センター 多目的ホール
○日 時：令和元年12月24日(火) 10:00~12:00
○出席者：中林分科会長、谷川副分科会長、大山委員、中村委員、青木委員、沢崎委員、武者委員、市原委員、染谷委員、浅野(文)委員、吉田委員、松村委員、石川委員、菊入委員、大塚委員、川名委員、長委員、田口委員

(発言者の敬称略)

1 開会

2 議事

(1) 新基本構想の構成イメージ及び各政策の長期的な方向性について

- 資料1 葛飾区基本構想の構成イメージ
○資料2 各政策の長期的な方向性

委 員 基本的な方向性が5点挙げられているが、主語は加えないのか。例えば「全ての区民」や「全ての子ども」といった文言があれば、誰のための政策なのかが具体的になるのではないかと。

事 務 局 ご指摘について、全体的な記載を踏まえて検討していきたい。

分 科 会 長 「区民」の定義については前回も検討した。例えば、観光であれば対象は区民とは限らないし、区の政策全てを住民だけでまかなうという時代でもない。区民という表記について検討すべきである。また、「誰のためにする」、「誰と一緒にする」といった書き方があると思うが、資料2を見ると後者であるように感じる。基本構想にもそういった書き方を取り入れていければ良いのではないかと。

事 務 局 基本構想の前提として、「区民」の定義を記載する予定である。広い概念での「区民」を基本構想上に位置付けていきたい。

委 員 区民モニターアンケートにおいて、現在の葛飾区のまちのイメージとして「産業や観光で賑わうまち」と回答した人は13%である。葛飾区には、産業や観光は期待されていないのではないかと。このアンケート結果と、資料1の産業・観光に関する記載にはギャップがあるように感じる。高齢者や若年層など、世代によってもギャップがあるまちのイメージを、基本構想にどう反映させていくのか。区民モニターアンケートの結果を見ると、20年後30年後の葛飾区がどんなまちであってほしいか、という問いに対する「水や緑が豊かなまち」の回答割合は20.1%と低い。住民はそういった方向性でのまちづくりを求めているのではないかと。このアンケート結果にどこまで重きを置いて検討していくのか。

事 務 局 将来像については次の議題で詳しく検討したい。ただし、住民が求めているとしても、区として検討をする必要がないという訳ではないと考えている。

分 科 会 長 資料1の「基本構想の役割」に「区民、国、都等」と記載があるが、「等」は具体的に定

義できないのであれば入れない方がよい。資料1の第2章について、協働の対象として「区民や事業者、団体など地域の様々な主体」とあるが、タイトルは「区民との協働」となっており、内容と一致していない。また、先ほど述べた住民以外の人々が抜け落ちているように感じる。多様な主体との協働と、広い意味での「区民」の定義とを整合させてほしい。将来像「区民とつくる、水と緑とゆたかな心ふれあう住みよいまち」の「区民」とも関連している。

副分科会長 前回に比べてロジカルまとめられていると感じる。資料2の政策14「産業」について、創業・事業承継がうたわれているが、ターゲットが絞れていないように感じる。基本計画ではターゲットが明確になることを期待する。

事務局 ご指摘について、基本計画、実施計画への反映を検討する。

分科会長 政策14「産業」の基本構想に描く長期的な方向性に、「老若男女」という文言は必要か。創業についても国籍を問わない時代になっているのではないか。外国から来た方が創業するなど、誰でも創業できるような取組が必要。事業承継と創業に関する文章は、「するとともに」でつなげているが、無理に一文にせず、分けてはどうか。

委員 将来像は分科会の後、全体会でも議論するのか。将来像や理念を先に議論し、その後に基本的な方向性を議論することを想定していたので、議論の流れを確認したい。

事務局 将来像については次の議事で議論する。次回の全体会では各分科会の意見を取りまとめる予定である。前回提示した施策の方向性は、現時点での情報をもとに事務局が取りまとめたものであり、今後、実態を反映させていく中で将来像や基本的な方向性のズレなどは修正していきたいと考えている。

分科会長 基本的に省略されているが、基本的な方向性の主語は「区」であり、全体としては、区は基本的な方向性に示すまちを「区民とつくる」になるはずである。基本的な方向性に「区民とともに」といった表現があったりなかったりするが、どう整理しているのか。

事務局 記載のないものが協働を想定していないという訳ではない。表現については整理していく。

分科会長 「地域が主体」、「多様な主体」等の記載が散見される。まちづくりは行政だけで進めるものではないという前提だと思われるが、表現は揃えてほしい。政策10「防災・生活安全」の基本構想に描く長期的な方向性について、密集市街地の整備はハード・ソフトともに地域住民なしではできないため、「区民・事業者・防災関係機関等が連携し合って」は最初に記載してもよいのではないか。

副分科会長 政策10「防災・生活安全」について、道徳心があれば防犯は実現できるのではないか。道徳教育が区政を良くしていくのではないかと考える。

分科会長 かつての長屋における下町人情のように、社会としての見守り機能が防災・防犯につながるという点も追加してはどうか。

事務局 ご指摘の内容は重要と考える。子どもの頃からそのような教育をしていくことが大事であり、地域教育や大人への意識啓発の観点からも、防犯意識の醸成を進めていきたい。

- 委員 政策 11「交通」について、公共交通の充実が防災や健康、通勤通学、脱炭素など、影響する範囲が広い。新金線についても記載されておりうれしく思っている。
- 分科会長 政策 12「公園・水辺」について、公園の自主管理が難しくなっているところがあるが、公園はパブリックな機能を担うものであり、子どもが安心して遊べる場としても地域における自主管理は大事。維持・管理における区民の役割を明確にしたらどうか。政策 13「環境」にごみに関する記載があるが、プラスチックの排出抑制についても一人一人の区民の果たす役割は大きい。区民の役割を、もっと前面に出してもよいと考える。
- 事務局 区民の役割については、基本計画などに落とし込んでいく過程で整理していきたい。
- 事務局 主語については区に限らず、区と区民として全体的に整理していきたいと考えている。
- 分科会長 区と区民がつくるまちであり、長期的な方向性なので、全体としてその考えで基本構想の表記を揃えてほしい。
- 委員 公園は子どもたちの遊び場であるが、そこに大人がいることによって地域の目で見守ることが重要と考えている。政策 10「防災・生活安全」には「自分の身は自分で守る」という考え方が強く出ているが、地域の協働についても意識してほしい。
- 事務局 表現については整理したい。
- 分科会長 政策 15「観光」に「区民一人ひとりの「葛飾区に住み続けたい」という想いを育てていく」とあるが、なぜ「住み続けたい」に関する記載がここにあるのか。
- 事務局 観光客などとの様々な交流を通じ、区民が観光のまちとしての誇りを持ち、あらためて「住み続けたい」と思えるまちにしたいという意図である。表現については工夫したい。
- 分科会長 観光資源を区民の誇りにしたいということか。表現については意図が伝わるようにしてほしい。

(2) 新基本構想における将来像について

○資料 3 現基本構想における将来像の検討に係る背景について

- 委員 区民モニターアンケート結果では、現在の葛飾区のイメージについて「街並みや景観が美しいまち」という回答は 3.8%しかない。水と緑ゆたかなまちにするためには、区と区民が協働で生け垣を整備するなど、具体的な取組を進める必要があるのではないかと考える。
- 事務局 「街並みや景観が美しいまち」の回答については、現在は低いですが、20 年後 30 年後に求める割合は高くなっている。良好な都市景観の整備については、積極的に進める必要がある。
- 委員 民間調査では、葛飾区が子育てしやすいまちで 1 位となっていた。また、家賃の安さに関しても 1 位だった。住みよいまちとして認識されてきているのは、待機児童がいなくなったからなのか。
- 事務局 日本経済新聞社等が実施した調査と思われる。待機児童も要因の 1 つではあるが、5 歳児健診、病院と連携した病児保育など、区独自の施策が評価された結果と考えている。

分科会長 将来像に対応する政策とのつながりを意識する必要がある。「区民とつくる」は全ての政策に関連するが、特に地域との連携が重要ではないか。

事務局 将来像について前回「水」が水害を連想するという意見があったが、資料3のとおり整理している。

分科会長 水とともに生きていくことは災害時も日常でも両方関わる。しっかりと検討していく必要がある。また、区民モニターアンケート調査結果について、現在と20年後30年後のまちのイメージが大きく異なっており、このギャップを埋めていくことが重要である。葛飾区への転居を勧める場合にどんなまちであってほしいかについて、上位10項目のうち「健康に暮らせるまち」以外は、20年後30年度の葛飾区がどんなまちであってほしいと思う項目と同じとなっている。これらの重要性を改めて感じた。

(3) 新基本計画の作成に係る検討の方向性等について

○資料4 新基本計画の策定に係る検討の方向性等について

委員 新基本計画の理念について、平和、人権の尊重、ユニバーサルデザインがキーワードになっている。「夢と誇りのあるふるさと葛飾の実現」にあたり、各政策とのつながりを意識した表現にすると良くなるのではないか。

事務局 基本構想の理念「人権・平和・多様性の尊重」について、全ての政策に反映できるようにしていきたい。

委員 将来像が実現されていれば「人権・平和・多様性」が満たされていなくてもよいということではないと思う。将来像に比べて理念が重く感じるので図をピラミッドではなく、丸型にできないか。また、基本構想の理念とまぎらわしいため、文言を基本計画の理念でなく、目標としてほしい。

事務局 図について、わかりやすく説明できるよう検討したい。基本計画については今までも理念としてきたが、他の表現も検討する。

分科会長 私としては、図については基本構想が傘となり、全てにかかるイメージである。基本計画における理念について、「理念」という表現には違和感がある。基本構想と基本計画の「理念」とは、何が違うのか説明しにくい。文言を変えた方が理解しやすいのではないか。

事務局 分かりやすい表現について検討する。

分科会長 基本構想のように計画期間を設けないということであれば「理念」が適切だが、基本計画は10年間の具体策であるため「目標」の方がよいのではないか。

委員 以前、分科会長より「協働」ではなく「総働」といったお話しがあった。「協働」という表現はやや古いのではないか。また、技術革新の進展についてはこの分科会では検討していないが、MaaS (Mobility as a Service) についても検討してほしい。

事務局 協働については、表現が古いとは認識しておらず、目指す姿としての検討が必要と考えている。技術革新の動向については、第4分科会での検討結果を各分科会にフィードバック

していきたい。

分科会長 協働は誰とするのか、相手が限られるが、総働は相手が限定されない。区民とは誰を指すのかにも関連するため、事務局にて検討してほしい。

委員 広報について、江戸川区ではシャトルバス内の画面に区の紹介映像を流している。PRとして有効であり、江戸川区は無償で実施してもらっていると伺っている。葛飾区でも実施可能であり、バスと同様に、銀行や郵便局、病院と連携して情報発信することも考えてほしい。

事務局 新基本計画の策定の視点として、「積極的な情報発信」についても記載している。情報発信は区民との協働を進めるためにも重要と考えており、コスト等を考慮しながら情報発信していきたい。

分科会長 病院の待ち時間など、ちょっとした時間に区民が情報を受け取れると良い。ケーブルテレビ、アプリなどいろいろな情報発信の方式も考えられるので、検討してほしい。

委員 「住み続けたい」という意識は、郷土愛が育成されればより強まるではないか。私自身、他の地域から転入してきたが、地域にどのような観光資源があるのかが分かりにくい。インフルエンサーなどによる情報発信が重要である。

事務局 観光資源の情報発信については、取り組んでいるが苦労も多い。郷土愛の観点について、表現を工夫して盛り込んでいきたい。

分科会長 今後はイベント型の観光資源が重要になる。イベントは情報を発信しないと成功しない。これからさらに情報発信が大事になると考える。

3 閉会

以上